

## 第1章

# これからの生駒の都市づくり

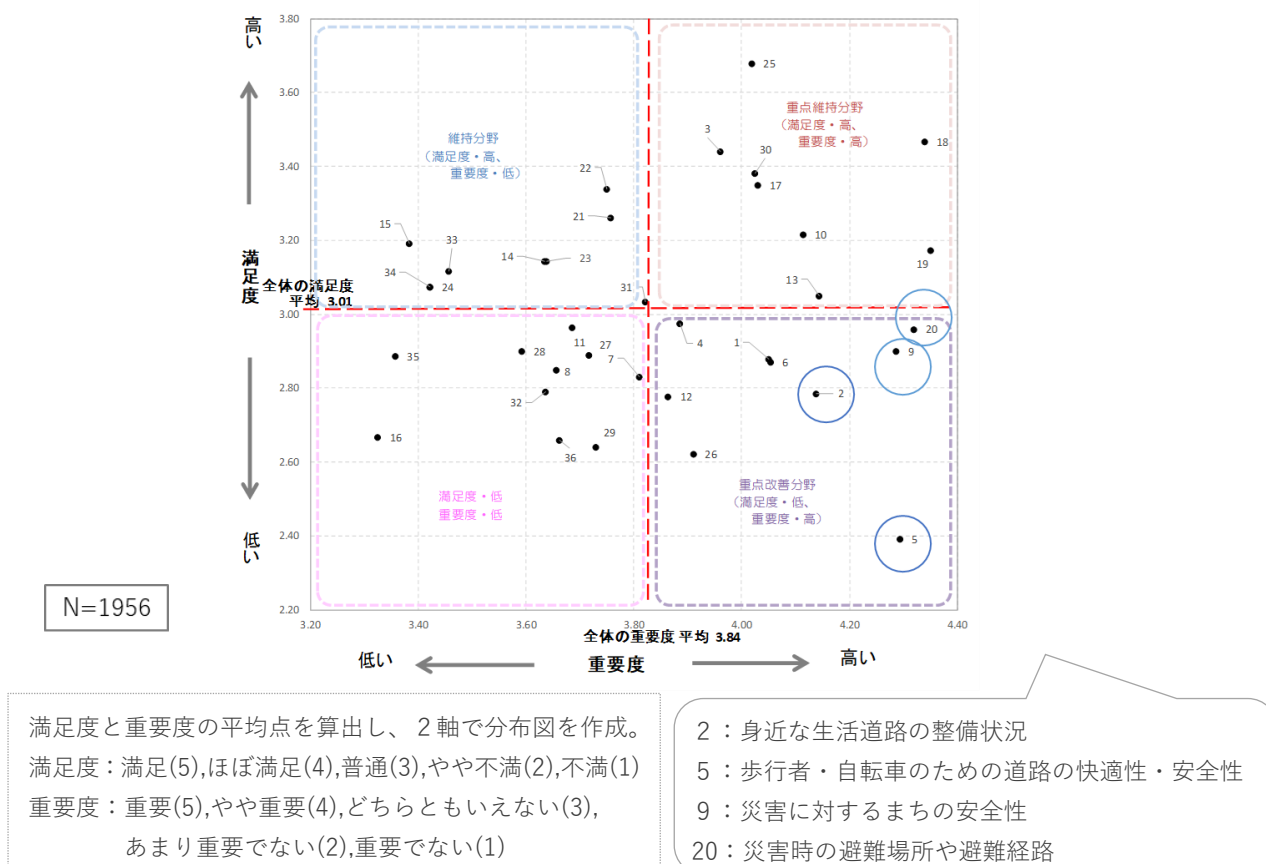
調査やこれまでの都市づくりを振り返ることを通し、把握された都市づくりの課題を整理しています。

# 1. 都市づくりの課題

上位関連計画、社会潮流、現況データ、市民アンケート調査結果等を踏まえ、これからの生駒市の都市づくりの課題を設定する。

## ● 安全で安心して健やかに暮らせるまちづくりが必要

近年、気候変動を背景にした風水害や土砂災害の増加、東南海地震をはじめとする大規模災害への危機の高まり、新型コロナウイルスなど感染症の拡大など、安全・安心を脅かす様々なリスクが高まっている。また、日常生活においては、高齢化を背景に一層、誰もが住み慣れた地域で健やかに安心して暮らし続けられる地域包括ケアシステムの構築が求められている。今後は、大規模災害に対応できる都市基盤の整備や地域の防災力の向上、市民の健康増進、高齢者、障がい者等の自立支援、安全に移動できる環境の整備など、誰もが安全で安心して健やかに暮らせるまちづくり、安全・安心が感じられるまちづくりが必要である。



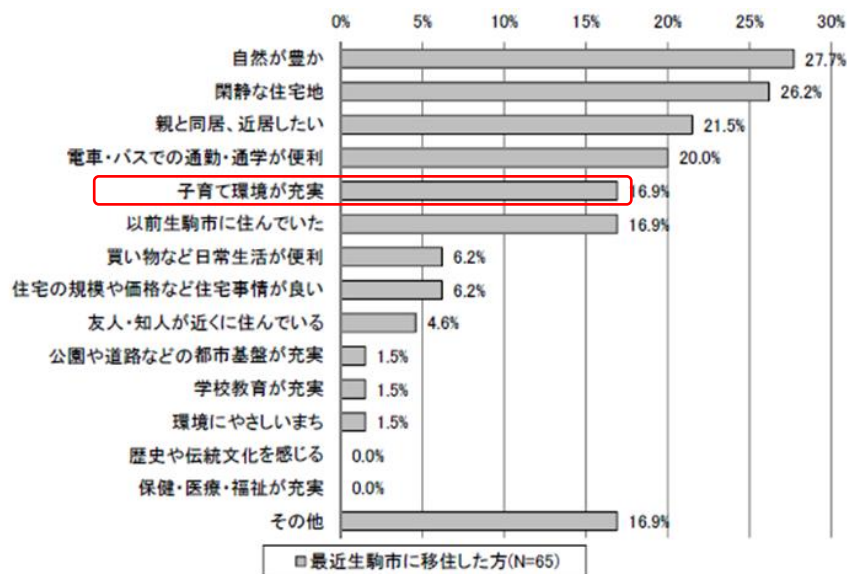
日常生活の満足度

出典：生駒市「生駒市都市計画マスタープラン改定に向けた市民意向調査」(2019)

### ●こどもを育み、市民と共に成長し成熟していくまちづくりが必要

本市を転入先に選ぶ理由として、子育て環境や教育環境のよさを選択する人が多い。また、市民の中には、現役を引退した知識豊富な高齢者など、様々な知識や経験を有した人材も豊富である。市内には奈良先端科学技術大学院大学や民間の研究機関など学術・研究に関わる組織も多くある。

ICTの活用や大学、研究機関との連携により、こどもを育む環境を充実するとともに、どの世代もお互いに学び合い、共に成長し成熟していくまちづくりが必要である。



生駒市を選んだ理由

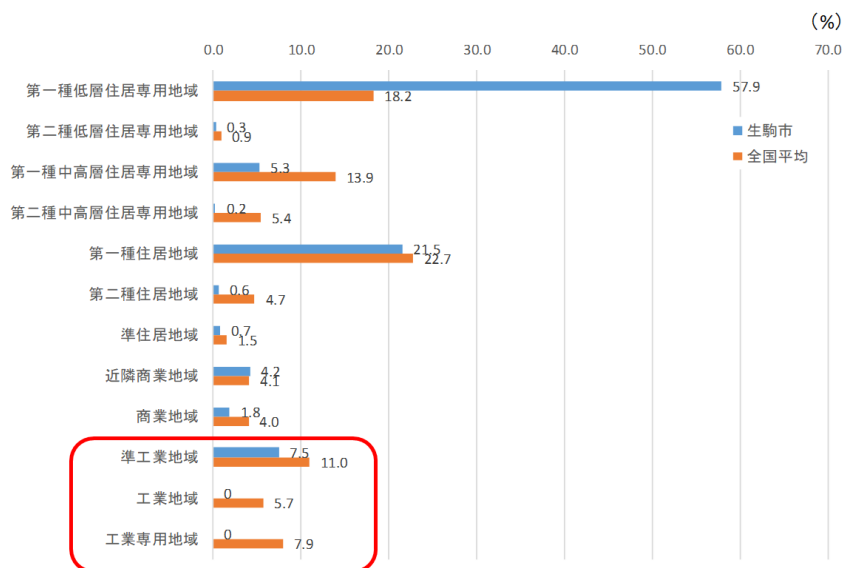
出典：生駒市「生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定に係る  
地方移住の現状・希望調査（平成27年）」

●これからの生駒の都市活力を創造するまちづくりが必要

本市は、住宅都市として発展した歴史を背景に、他都市に比べて産業機能の集積が乏しく、サービス業などの対市民向けの産業が中心となっている。工業系の用途地域は少なく、新たに産業機能を誘致できる場所も少ない状況にある。

また、中心市街地においては、担い手不足などにより空き店舗が増加するなど、にぎわいの低下が進んでいる。

これからの生駒の持続性を考えると、都市の活力の創造が必要であり、にぎわいの創出や学研都市における学術研究機能の充実など、住宅都市から一歩踏み出すことが必要である。



用途地域の面積割合

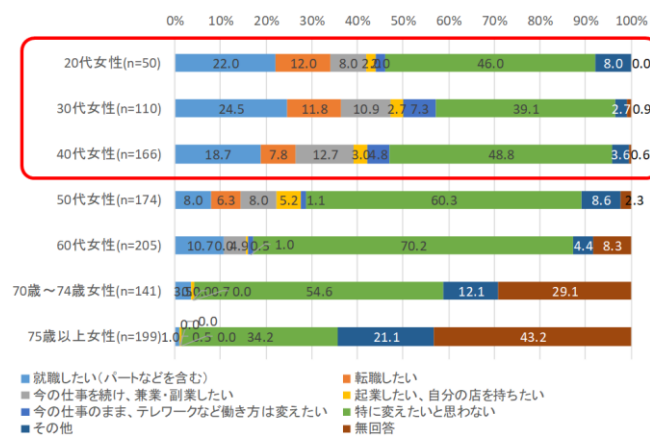
出典：都市計画基礎調査（2014）

●新たな住まい方・暮らし方を支え、活力とするまちづくりが必要

近年、ICT を活用した自宅などでの勤務、短時間勤務、副業など働き方の多様化が進んでいる。また、駅前や住宅地など様々な場所で市民による活発な活動が生まれるなど、新たな住まい方、暮らし方が広がりつつある。

一方、自治会の担い手不足や地域内でのつながり、世代間でのつながりの希薄化などは進んでおり、身近な地域での人のつながりのあり様は変化している。

これまで整備されてきた公共空間や公共施設等のストックを活かし、新たな住まい方・暮らし方や様々な活動を支えるとともに、世代間、地域間連携を進めることで、まちの活力につなげていく必要がある。



女性の仕事に関する意向（単数回答）

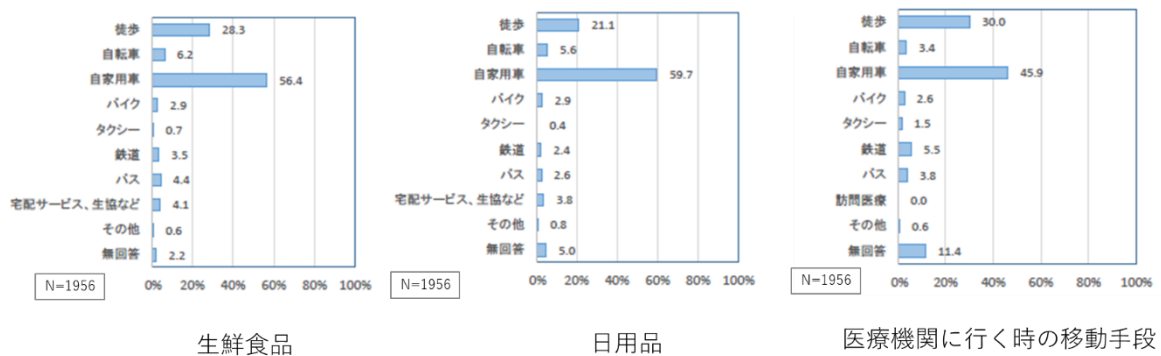
出典：生駒市「生駒市都市計画マスタープラン改定に向けた市民意向調査」（2019）

●「住みたい」「快適に豊かに住み続けたい」の思いが叶う都市空間づくりが必要

自動車保有率が高い本市においては、買い物は自動車で遠方の商業施設に行くなど、日常の生活圏域は広域であり、それに伴い徒歩圏内で生活を支える機能が十分に確保できていない地域もある。自動車利用前提の環境負荷の高い都市構造となっているのが現状である。

今後は、生産年齢人口の減少による公共交通の衰退、高齢者の免許返納による日常の移動手段の確保などの問題が顕在化することが予測され、生活に身近な拠点の充実や公共交通の充実により生活圏域を再構成し、身近な範囲で生活できるようにしていくことが重要である。また、人口減少、人口構成の変化により、空き家の増加への対応、ライフステージに即した住まいの提供への対応も重要となる。

「住みたい」「快適に豊かに住み続けたい」の思いが叶うよう、市民の生活に寄り添った生活圏域の再編などを進め、環境にもやさしい都市空間づくりが必要である。



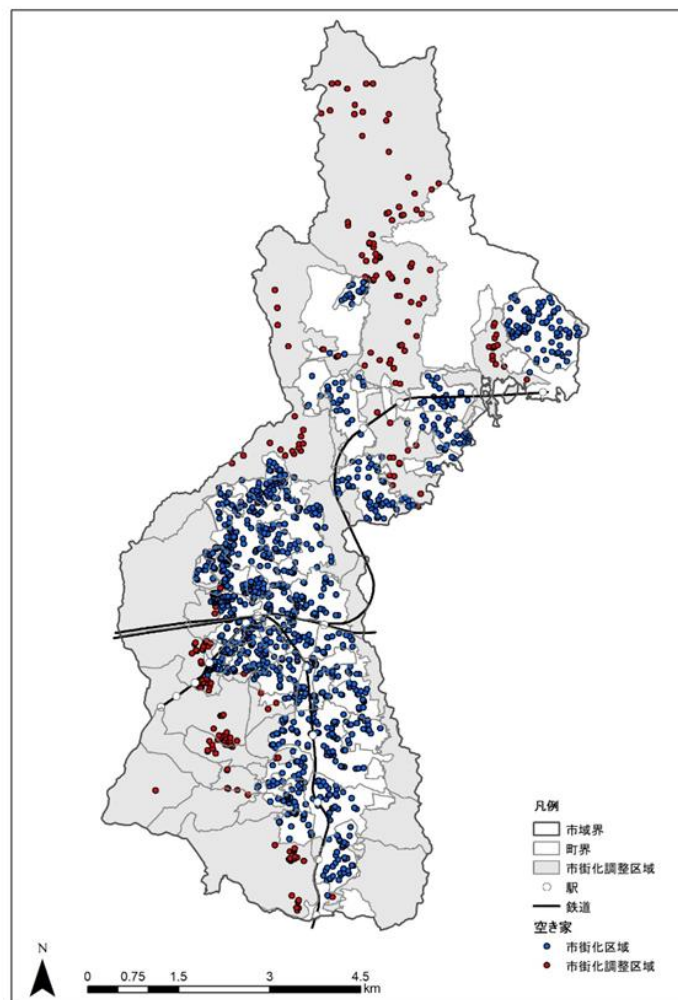
出典：生駒市「生駒市都市計画マスタープラン改定に向けた市民意向調査」(2019)

### ●歴史文化、田園・自然環境を活用・継承するまちづくりが必要

宝山寺や往馬大社などの歴史・文化資源や生駒山、竜田川、富雄川などの自然環境、高山町に広がる田園環境など、市街地に近接して豊かな資源・空間がある。豊かな田園・自然環境は、グリーンインフラとして、景観形成だけでなく、防災性や生物多様性など多面的な役割を有している。

一方、伝統文化の衰退、山林の荒廃や耕作放棄地の増加など課題も多い。背景には、これまで資源の保全・活用の担い手となっていた人々の高齢化や減少などがある。

豊かな歴史・文化資源や田園・自然環境・古民家を活用し、体験型の観光や交流の創出を図ることにより、担い手を育み、継承していくことが必要である。



空き家の分布状況

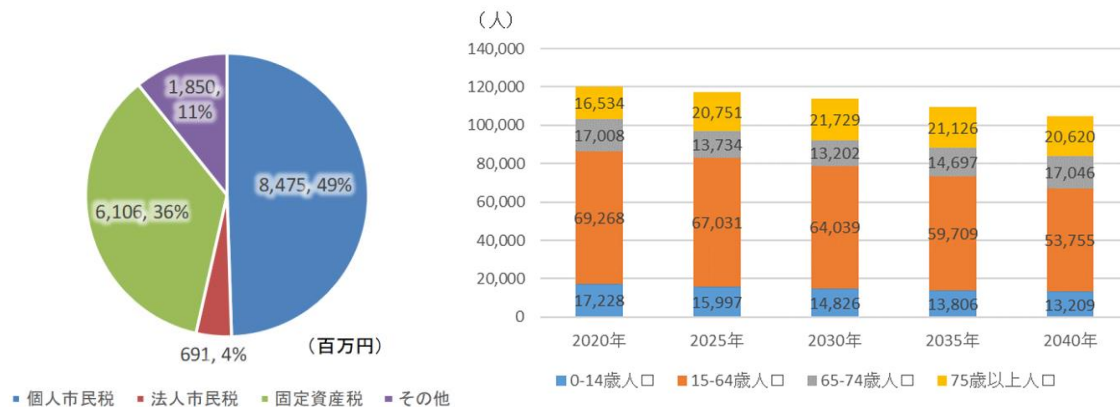
出典：生駒市「生駒市空き家実態調査報告書」(2017)

●都市経営の効率化を図り持続可能な都市経営を実現することが必要

今後、人口減少、特に生産年齢人口の減少による税収の減少や、高齢化の進展による社会保障費の増大とともに公共施設等の余剰空間の発生が見込まれる。

また、公共施設や道路、上下水道等インフラは老朽化が進行し、維持管理費用や更新費用が増大する見込みである。

分野間連携を意識した取り組み、公共施設等の再配置や余剰空間の複合利用、持続可能な都市経営を実現することが必要である。

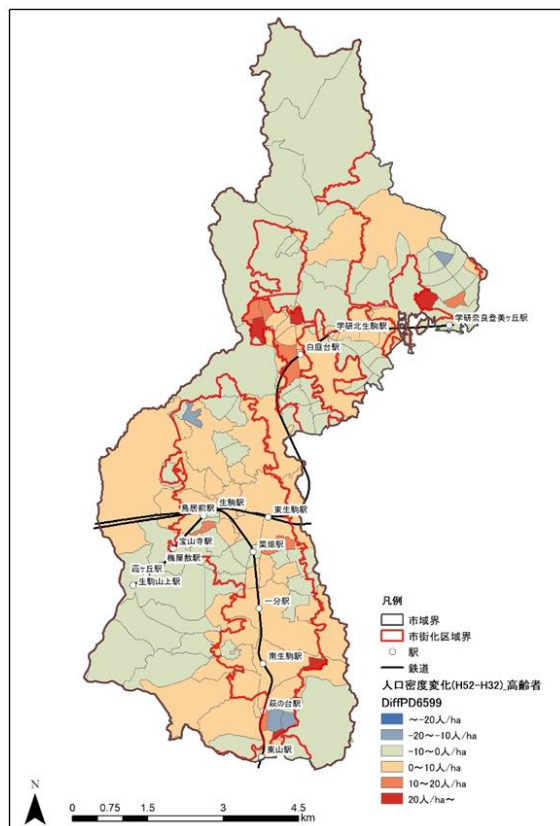
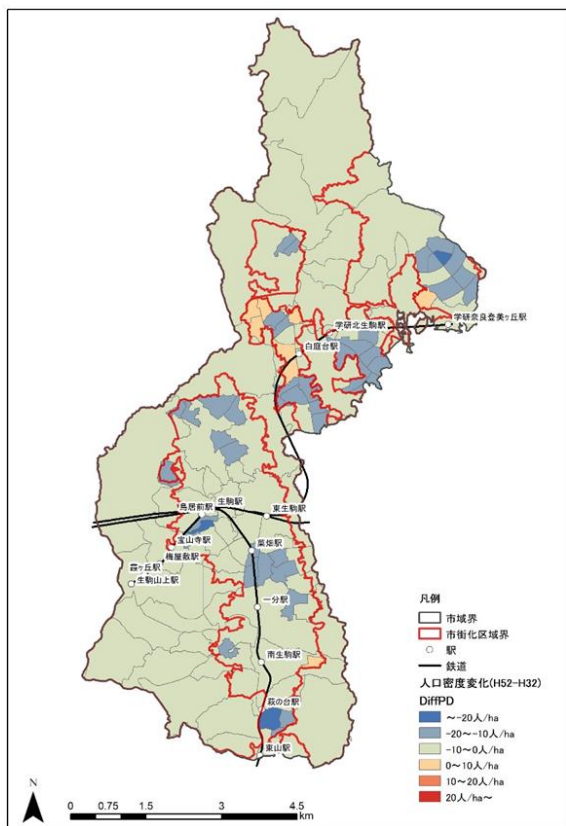


2018年度市税収入の内訳 (普通会計決算)

出典：一般会計歳入決算額内訳表 (2018)

年齢4区分別推計人口

出典：国立社会保障・人口問題研究所  
「日本の地域別将来推計人口 (平成30 (2018) 年推計)」



人口密度の推移 (2040年-2020年)

高齢者人口密度の推移 (2040年-2020年)

出典：総務省「国勢調査」、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」